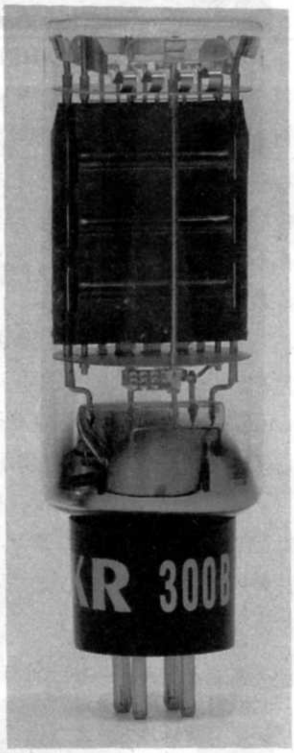
電圧増幅用双3極管

J/J ECC82/83

都来往人



●KR-エンタープライズの新型管 KR-300 B シリンダー・タイプ．一言でいうとズン胴型をしているが，チューブの“ひびき”はかなり違っていてダンピングされた高めの音がする

★はじめに

またもやチェコの KR-Enterprise 社から大変ユニークな 300 B 系出力管が発表されました．

今回発表された出力管は，形式名は KR-300 B ですが，何と 300 B 系出力管としては珍しい！　ユニーク？　な筒型のいわゆるシリンダー型（Cylinder-Type）です．

私がこれに気がついたのは 9 月末頃のことです．土曜の昼下がりにアキバのとある真空管販売店に立ち寄った際，「珍しい形の 300 B が入ったよ」とお店のご主人に声をかけられました．さっそくご主人にすすめられるままにウィンドゥの中を覗いたところ，まるで茶筒のような面白い形の KR-300 B があるではないですか！　これにはビックリしました．

といいますのも，KR においてシリンダー型のバルブは，すでに生産終了となった VV 32 B や 302 B といった 95 年製のモデルで初めて採用されましたが，その後これまでに発表された製品には採用されなかったため，シリンダー型のバルブが復活することはまずないだろうと思っていたからなのです．

また，10 月号では KR-300 B には ST 型と T(＝Tubular)型の 2 種類があることをご紹介しましたが，10 月号の原稿を書いた 7 月の時点では，今回ご紹介するシリンダー型の存在は，輸入元からの情報でも確認できなかったことも理由の 1 つです．

この VV 32 B や 302 B のシリンダー型は日本の市場にはほとんど出回らず，私も写真でしか見たことがなかったので，そのユニークな外観とあいまって，シリンダー型の KR 球は一度は現物を手にしてみたかったモデルでした．

それだけに今回の突然の出来事に，私はやや興奮気味となってしまい，「これは試さずにはいられない！」とばかり，またもやいつもの悪いクセで衝動買いしてしまいました．

おかげで危うく帰りの電車賃にも事欠きそうな有様でした（笑）

★構造的特徴

今回発見した KR-300 B シリンダー型は，すでに発表されている ST 型や T 型との間で次のような違いが確認できました．

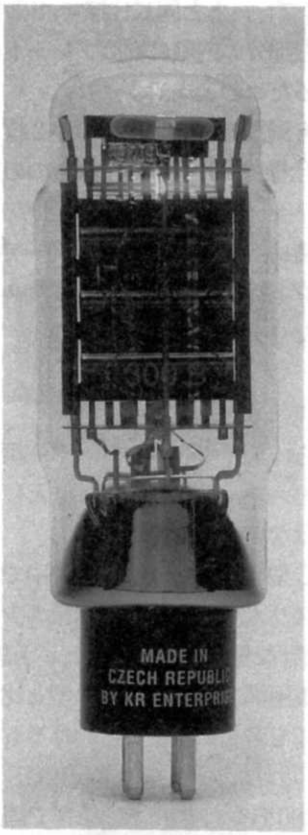
まず第 1 は型番のマーキング方法の違いで，ST 型や T 型はガラス面にロゴや型番が金蒸着の一種でプリントされていますが，シリンダー型は旧製品の VV 300 B や 32 B，302 B のようにベースの黒色フィルム部分に形式名がプリントされています(注：KR 製の 3 極出力管のベースは，タイト・ベースの上に黒い熱収縮フィルムを被せた構造になっています)．

第 2 の違いは，何といっても冒頭にお話ししましたとおり，やはり茶筒やジュースの缶のような直線的なシェイプのバルブ形状にあります．

管頂部も側面もフラットな外観は，例えていえば 5 R 4 WGY のバルブ部分や蛍光灯のグローランプの形状に最も近く，曲線部を可能な限り取り去ったシンプルなそのデザインは，無骨で素っ気なさを感じる方もおられるかとは思いますが，メカニカルで近代的な雰囲気を持っており，これはこれでなかなか面白いデザインです．

第 3 はバルブのサイズの違いで，シリンダー型バルブの全長は ST 型や T 型よりも 15 mm ほど短く，また，太さは T 型よりも細く，ST 型のドーム部分の直径と同じで，大変スリムな外観です．

ガラスは他のモデル同様に厚めの良質の素材です．厚手のガラスとスリムでやや小型かつ表面積の小さなバルブ形状との相乗効果で，同じ KR-300 B の中でもシリンダー型



●本来8月号で紹介したKR-300 B-T型管を叩くとややにぎやかな感じのひびきがする.

の，できればトランスのうしろに隠してしまいたいと思うこともありました.

しかし，今回のKR-300 Bシリンダー型と5 R 4 WGYのルックス上のマッチングは良好で，なかなかいい雰囲気です.

真空管オーディオは，アンプを作る楽しみのほかに，球の差し換えや組み合わせといった楽しみもあります.

これは深みにはまって下手をするとコレクターに変身してしまうことの原因のひとつでもありますが，TPOに応じて遊べるという楽しみは皆さんにも共感していただけるのではないかと思います.

さて，次にKR-Enterprise社からどのようなニューフェイスが登場するか？ とても楽しみです.

特にKR-300 Bの第4の変形バージョンとして，同社のPX 25に採用されたナス型(Globe-Type)バルブが登場することを切に希望します.

KR-PX 25はKR-300 Bと内部構造はほぼ同じことから，KR-300 Bにナス型バルブを応用することは，さほど困難なことではないと思います.

KR-Enterpriseのオーナー：Dr. Kron氏には，ぜひとも近いうちにKR-300 Bナス型 (Globe-Type) を発表していただきたく，紙面を借りてお願いする次第です.

★KR-300 Bシリンダー型の入手先

私は秋葉原のアムトランス㈲やクラシックコンポーネンツ㈱で購入しました. 興味のある方は問い合わせてみてください.

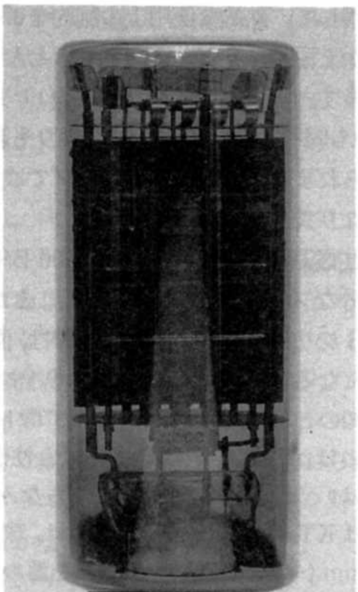
★おわりに

私は海外のWeb上でKR製のシリンダー型出力管の写真を見て以来，このユニークなデザインの球がどうしても欲しくてたまりませんでした.

KR-300 Bシリンダー型を発見した半月前に，たまたま米国のWelborne-Labsのホームページを覗いたところ，95年に製造され，すでに生産終了になったVV-302 B (VV-32 Bの青ガラス版) のシリンダー型の在庫品がペアで200ドルという国内の半額近い手頃な値段で載っていました. そこで思い切ってネット・ショッピングに初挑戦し，VV-302 Bのシリンダー型を1ペア注文しました.

それが今回, KR-300 Bシリンダー型を購入した当日に, あわせてVV-302 Bのシリンダー型も運良く到着したことから, 新旧のKR製シリンダー型出力管を同時比較することができました (注：残念なことに10/20現在，Welborne-Labsにわずかに残っていたVV-302 B Blue-Cylinderはすでに完売になっていました. もし同モデルをお探しの方は，Web上で別な業者をお探しください).

VV-302 Bのシリンダー型 (青ガラス) とKR-300 Bのシリンダー型の外観上の差は，ガラスの色の差を除くと，プレート上部の両角が斜めにカットされているかいないかの違いしか見当たりませんでした (KR-300 B Cylinder-Typeはプレート上部の両角が斜めにカットされています).



●ブルーのチューブに入ったVV-302 Bシリンダー・タイプ. 筆者は95年ごろ入手している.